

鵬 鷲

HOSAI

「鵬鷲」鵬は翼の巾3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おおとり）が飛ぶ（=はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近づきたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



八代経済開発同友会
広報誌第6号（通巻第90号）
<http://www.ytnet.or.jp/ykd/>
E-mail:ykd@ya.magma.ne.jp

一年を振り返って



代表幹事 上村 憲助

平成15年度は、同友会にとって創立40周年という記念すべき年でした。これまで諸先輩方が培って来られた同友会の名声を傷つけることなく、そして更には同友会の評価を揺るぎないものとしなければならない一年でもありました。

代表幹事としては役不足であり、十分にお役に立つことはできませんでしたが、会員の皆様方の絶大なるご協力のもと、記念事業並びに各種事業を無事終えることができました。本当に有難うございました。

この一年の経験を16年度の運営に生かして行きたいと思えます。引き続きのご協力を宜しくお願い致します。



専務理事 山田 邦彦

同友会に入会して一年も経たないうちに、しかも40周年の大きな節目の年、専務理事の大役を仰せつかったただ右往左往するばかりの15年度でした。

暖かく見守って頂き、激励して頂いた上村代表幹事始め会員の皆様に深く感謝致します。しかしながら、16年度も再度専務理事の任を仰せつかりましたので、振り返るより、本年運営上出来なかった事や、様々気づいた事に挑戦して行こうとの決意を新たにしております。景気回

復の兆し未だ見えない状況の中、私達同友会にも会員数の減少を含め様々な問題が山積していると感じています。一つ一つ微力ではありますが、前に進みながら、運営をさせていただきます。一年間大変お世話になりました。

また、本年度も宜しくお願い致します。



常任会計幹事 穴倉 渉

平成15年度は、八代経済開発同友会40周年にあたり、今まで積み立ててきた基金を基に「40周年記念事業費」として350万円を予算計上しスタートしました。

創立40周年記念ゴルフコンペ、丸山浩路氏の記念講演会、記念式典・記念祝賀会、田中秀征氏をお招きしての「八代の未来を考える」シンポジウム、そして、40周年記念誌の発刊と、お陰をもちまして無事終了することが出来ました。

担当をされました各委員会の皆様方におかれましては、40周年記念事業成功のため、何回も会合を重ねられ、予算通りの実行がなされましたことに会計担当としまして厚く感謝申し上げます。



副代表幹事 一川 誠一

総務親睦・広報情報委員会と、40周年実行委員長の貴重な体験を实践させて頂き、本当に有難う御座いました。両委員会共出席率

が高く近年にない活動が出来たものと自負いたしております。正副委員長様お疲れ様でした。委員会活動と共に、40周年記念事業では、式典・懇親会・講演会・記念誌発行・ゴルフコンペ・表彰式及び懇親会等、思い出してみましても、会員の皆様はもとより式典・懇親会・講演会にご出席頂きました関係各位の皆様方、コンペ賞品の協賛をご協力頂きました。地場企業の皆様方に心よりお礼を申し上げます。今、中小企業を取り巻く社会状況は極めて厳しく、予断を許さない状態です。今こそ会員一同力を合わせ、周囲の話を良く聞き、はっきり意見を言う申年にしたいと、強く念じる毎日です。今後とも微力ですが同友会と共に、一歩へ前進あるのみです。

ご協力衷心より感謝申し上げます。



副代表幹事 成尾 敬三
インフラ、コンベンション、地域文化、この3委員会の皆さん1年間ご苦勞様

でした。担当副代表としてお礼申し上げます。

今年度は、同友会の内外ともに激動の1年であったと言っても過言ではなく、また40周年事業、市町村合併など同友会全体での課題もありました。

また私の担当委員会でも八代市にとってその将来を左右する新幹線の乗り入れと肥薩おれんじ鉄道の同時開業という交通の大変革に対応しなければならない問題を抱えました。また今年のコンベンション委員会は八代水草架橋サッカー大会、また3デーマーチの八代亜紀コンサート、絵画展。まさに委員長、委員各位も東奔西走、大変なご苦勞をされました。

また、地域文化はまず八代市の文化課長のご紹介で八代地域の特殊な遺構に偲ばれるいにしえの八代の姿と、これを新たな郷土発展にどのように生かすのか、そのような中で長年の懸案である八代の城址復元にも具体性を持たせる活動をしようと言うことになりました。単年度完結ではなくこれらの活動は次年度につながり引き継がれることを期待します。



副代表幹事 松嶋 祐治

顧みて、今まで50数年間バブル期を除き特別な時代の変革を意識しなかった過去に、平成時代の15年息をせきぎったかのように、今大きく変貌し著しい発展の兆しを見るにあたり、八代地域での同友会会員の一人として、関連機関と合議・提案等々に色々と参画の機会を与えて頂き、六十路を越えた今、自分のライフサイクルの中に思いで深き時代を記すことが出来ました。

人間・地域社会での個々人の存在がいかに大きな支えになるか、同友会活動を通して貴重な体験を致しましたことにより、感謝申し上げます。

未来の八代の発展を思い描き、見つめ、今後の同友会の更なる地域への提案者として、又は経済人としての貢献を期待します。

大変お世話になりました。



総務・親睦委員会

鶴田 稔

平成15年度、総務・親睦委員会の活動は、経済開発同友会創立40周年記念事業の企画・運営に尽きると言っても過言ではない。

9月に開催した20組80名を擁した記念ゴルフコンペは、参加者及び商品の多さに絶賛を博した。協賛戴いた各社、各位に改めて御礼申し上げます！10月には丸山浩路氏による「出会い ふれ愛 感動！」と題した記念講演会。言葉のみならず全身で伝えるパフォーマンスたっぷりのカルチャートークは、実に感動的なものであった。記念式典では、パワーポイントを使用して過去10年間の歩みを振り返ったプレゼンテーションは、来賓のみならず会員にも同友会の活動が良く理解できる内容だった。祝賀会では、若い女性のダンスが華を添え、多くの来賓とともに盛会裏に懇親を深めることが出来た。これも偏に、委員の努力と会員各位のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。とりわけ、本年は委員の皆さんが積極的に委員会に参加していただいたことに感謝いたします。

次年度は、総務・親睦委員会の本旨に則り、会員並びに企業へのサービスとしての、例会・

懇親会等の充実を図ってくださることを期待します。



広報情報委員会

下 田 幹 二

本年は、鵬際の発行に加えて40周年記念誌の発行という大きな仕事がありました。県知事様・市長様・商工会議所会頭様・青年会議所理事長様・同友会の方々に、ご協力頂きなんとか無事に発行することが出来ました。この場を借りて、御礼申し上げます。

鵬際も委員会の皆様のご協力もあり予定通りの発行をすることが出来ました。元新聞部の代表や、宮崎哲也君には特にお世話になりました。

ただ情報については、和久田彰さんのおかげでメールマガジンをはっこういたしましたことが、その他は4月にブロードバンドのセミナーを開催したに留まり、当初からもっと突っ込んでやりたいと思っていた方面ですが、まだまだ十分活動が出来なかったことが、反省点です。

今後は、別の委員会ではありますが、今年と一緒に委員会をやってきた松嶋さんが委員長です。し残したことは一会員として提案・協力していきたいと考えます。

一年間本当に有難う御座いました。



インフラ整備委員会

中 村 重 之

範囲が広く、大事業ばかり手掛けているので会員の勉強会に徹したという感である。

新幹線八代駅前広場も乱用開発にならないように計画的な都市開発が望まれる。言うまでもなく新生大八代市が誕生するのも一カ年余であるから、この新八代市の陸の玄関口として百年の大計によって、博多まで開通するここ数年が大切な時期となる。

おれんじ鉄道にとっても同様であり、新幹線で味わえないメリットを生かして沿線のPR等に努める必要がある。

八代天草架橋については、単に八代、天草の問題としては解決できないと思う。長崎、熊本、

鹿児島、三県架橋の一角に宮崎も組み込んだ南九州のみならず九州全体の交通体系として位置づけをして、国家レベルの事業とする運動を粘り強く続けることで糸口が見えてくるのではなかろうか。



地域文化研究委員会

上 村 晟 之

新幹線及び肥薩おれんじ鉄道開業、市町村合併の動きに伴い、一段と地域の顔が求められる昨今、市民のシンボルとしての城跡復元は同友会が

17年取組んできた懸案であり絶やすことができないテーマであります。敢てこれに再度スポットを当て勉強会を行い3月23日に八代市長と市議会議長宛に陳情書を提出することが出来ました。

これは、産学官一体となった城跡の復元整備に関する専門委員会の設立の陳情書と、八代城跡の復元整備についての質問に対して八代市からご回答を頂く要望書の2つからなり、一步踏み込んだ具体的目標を明確に設定することで、それに対して市のお考えを伺うといった形式の陳情書とさせて頂きました。

近々その回答が頂けると思いますが、これを機に来年度は何らかの形で城跡の復元整備が一步前進できればと切に願っております。

この陳情書及び要望書は同友会ホームページにてご覧になれますので是非アクセスして下さい。

最後にこの陳情書作成に当たり、ご協力頂いた熊本大学北野教授他、関係各位に於かれましては、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



コンベンション委員会

岩 橋 恵 一

一年間無事にコンベンション委員会の運営を努めさせて頂きました。

当委員会のメンバーを始め、会員の皆様方のご支援、ご協力を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

第8回八代天草架橋旗高校サッカー大会に於きましては、初の4日間大会で幕を開けましたが、雷雨による試合中止、会場運営等と問題提議を頂きました。

第9回大会の、企画、運営に関しましては、

八代サッカー協会の協力を得る事が出来たので、スムーズな大会運営が出来ると思います。

次に、八代亜紀と共に明日の八代をつくる会の、第1回目の事業としまして、八代亜紀野外コンサート、絵画展、絵画コンクールに関しましては、委員会事業として取り組むには無理があった様と感じました。

八代シティープロモーションセンターの立ち上げに関する事等と、色々勉強させて頂きました。

最後に、担当事業に於きまして対外的にも沢山の各関係団体の皆様にお世話に成りました。

本当に有難う御座いました。



産業振興委員会

吉住 一郎

産業振興という大きな名前を頂きましたが、実際は、八代エコポート構想策定に関わった1年間となりました。この構想は、民間から行政へ投げかけた形で策定に着手し八代商工会議所を中心に組織をつくり、市内部でも委員会をつくり双方でつくり上げたものになりました。構想の内容については、2月の例会で山本課長が報告されたとおりです。この構想の一番重要なことは、起業に必要な情報を公開し、民間企業の自主的な力で産業を創造していくところで、制度的な企業振興策ではないところです。現在の企業振興制度は生かしつつ、必要な制度はその産業の実情にあったものをあとから考えるというところがある意味画期的で不確実な時代に即応できるものと思っています。実質的には、この4月からの取り組みにかかっていますが、この構想が順調に進み八代の新たな産業の核となることを期待しています。

構想づくりということで、作業の途中の情報が委員会へなかなか発信できなかったため、委員会活動につながらなかった点を反省しながらも1年間さまざまな皆様に支えて頂きましたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



市町村合併推進委員会

野尻 敬嗣

一年間大変お世話になりました。

広域関連委員から、合併を目しての市町村合併推進委員会への、手段を明確にしての運動展開、今思いつくと大変な委員会でした。

1市7カ町村の合併、合併特例法期間内に着地が出来そうな運動が出来たこと、同友会がそして私自身がこれからの八代に関われたことに、誇りを持ちたいと思います。

来年度は委員会の名称も地域活性化委員会と変わり、合併後の八代に同友会がどのように関わっていくか、“山川海野”の八代に期待しております。



企業経営委員会

神園 喜八郎

本年度の委員会は、前回取り組んだアウトソーシングを理論展開から現場展開の糸口を探せないかという課題を上げ、市役所に対し役所の意識、今後の取り組みのスケジュール等を何とか引き出し、1つのモデル事業が出来ればと進めてきました。しかし行政との勉強会開催の計画までは漕ぎ着けたものの、私の個人的な事情も重なり先に進めることが出来ず、委員会としての機能も終盤失った感のある残念な結果となりました。

代表幹事はじめ同友会の皆様には、1年間何も出来ずじまいでご迷惑をおかけしました事をお詫び申し上げます。しかし、この問題は同友会として問題意識を持ち取組んでいけば、必ず会員の利益につながるテーマだと思いますので、是非今後取り組んでいただければとお願い致します。

3 月 例 会

どうするこれからの八代

パネルディスカッション

3月16日の例会で、上記ディスカッションが、中島隆利八代市長、三上晋株式会社熊本健康科学研究所代表取締役、佐藤泰生国立八代工業高等専門学校校長を迎えて行われた。テーマは「どうするこれからの八代」。上村代表がコーディネーターとして進められ、活発な議論が交わされた。（以下敬称略）



上村：まず3月13日新幹線開業で八代は大きく変わろうとしている。肥薩おれんじ鉄道も含めて、この点からご意見を伺いたい。

中島：行政もこの2つをどう活かすか、議論してきた。その結果（1）八代が九州の広域交流の拠点となるようこれらを活用しよう。（2）八代港と新幹線を結びつけて八代の活性化を行う。人・モノ・情報が交流し合い活性化していく。（3）観光が今まで発展してこなかった。今後の八代の活性化のための大切な課題。

の3つの点から進めていきたい。これらを進めていくための、母体となるシティ・プロモーションセンターを立ち上げたいと考えている。



佐藤：新幹線で若者は福岡・鹿児島に行くのだから、八代はシニアに目を向け、シニアが降りたくなる八代にするのが良いのでは。肥薩おれんじ鉄道は、市民の足として、ダイヤ・料金を考えてもらいたい。

三上：肥薩おれんじ鉄道は、時刻表のいらぬ鉄道になってもらいたい、と提案したい。ということは、将来的には、5～6分間隔で運行されること。今は19両しかないので不可能だが、市民の力を結集して市民の調達で1年間に1両ずつ増やしていき、まず20分に1本、それからもっと増やしていく。

また、老人が孫を連れて乗るような鉄道にすることも大切。そのためには沿線の史跡、産物を調べて、小学校の遠足には必ず利用してもらうようにする。これをすすめると沿線の工場も見学してもらえるように、改札口を出入りしやすいところにつくる等の工夫も必要。それと同時に会社側も紙の博物館を作る等、見学の施設を作ってもらったらさらに良い。また、日奈久の活性化により鉄道で日奈久に来てもらう、等老人の方が利用される鉄道にしていく。

などなどいろいろな工夫で、おれんじ鉄道をなんとか黒字にする。すると、黒字になった第3セクター鉄道ということで、情報が全国に発信され、八代の底上げに結びつく。

上村：この点から、同友会の方からご意見等ないでしょうか。

成尾副代表：八代市内に緑の回廊線が出来つつある。また、おれんじ鉄道は通勤通学の利用者も多い。自転車と結びつけて、八代のウリを自転車においてはどうか。



中島：緑の回廊は、今年駅から大手町までの部分と、球磨川駅つなぐ部分が出来る計画。メルシャンの裏から郡築用水の部分と市内をつなぐ計画も進めており、ここまでできればほぼ3分の2が出来上がる。さらに新幹線駅から宮地まで、又球磨川まで伸ばして、八代市全体に自転車網を広げるとともに、自転車のレンタル機関を作ったり、肥薩おれんじ鉄道で自転車列車をつくりなどにより、鉄道と自転車で市内を散策できるようにすれば、八代は勾配も少なく、魅力的

な町になるのでは。そのために、路の段差をなくす改修事業を提案している。

自転車の町は全国に十数か所あるが、八代ほど環境の整った町は無い。

上村：次のテーマとして、同友会でも八代は港を中心として活性化しなければ、という考えがあるが、県としては港湾計画の見直しに非常に厳しい見方をしているように感じられる。エコポートの構想を含めて、ご意見を伺いたい。



中島：県の位置づけとしては、八代港は八代以南の工業港として位置づけられてきている。熊本港は1万トンの船がつけられる港にしようということも方針に残っている。県は、八代港をアジアの玄関口の国際貿易港とする位置づけをした港湾整備計画とするべき。

八代市民ももっと歴史を知るべき。八代は、中国・朝鮮との貿易の歴史がある。新しい港作りをしていけば、人が憩える港になっていくのでは。

5大企業だけでなく、リサイクルの企業を誘致する、エコポート構想を進めている。

佐藤：北九州の響灘で、リサイクル企業の集積がされており、ここと連携してその分工場を誘致する等考えていくべき。

上村：三上さんは、旅客の部分でお考えがあるとお聞きしましたが。



三上：不知火海を生活導線と考えると、松島・牛深・三角とどう結びつけるかを考えるべきだろう。今のフェリーはインターまで時間がかかるのがネック。しかもバスの便も悪い。フェリーを日奈久につければ、これらが解消され、日奈久の集客にもつながる。さらに日奈久の温泉を療法として研究し、タイアップして魅力を出していくと良い。

また八代の漁港については、海上タクシーをもってすれば、魅力のある港になる。

上村：次に、シニアに比重を置いた町づくりという視点ではどうでしょうか。

佐藤：八代はシニアの好まれる要素が多い。市・県のマスタープランも、これにあっている。ただシニアが訪れたくなる、住みたくなる町としては、ごみが多すぎる。きれいな町づくりとし

てのアイデアが多くあっても、散在しているので、なかなか実現しない。連携が必要だろう。

NPOを統合したGNPOとでも言うべきものがあれば、話が進んでいくのではないかと。

三上：八代は農業の基盤があり、シニアという面からはこれが大きい。都市に住んでいる熊本の出身者に話を聞くと、農業をやりたいという人が多い。特に、有機農業を進め、農業観光・農業レストランもつくり、農業を中心としてシニアに魅力のある町づくりをし、ITインフラを整備てこれらを発信していくことで人が集まる。

上村：最近、ヨーロッパで老後を楽しむ人が増えている、という記事も出ていたが、自然の中で癒される場所で老後を過ごしたいという人が多いようだ。八代には、山・川・海・野に恵まれており、これに適しているように思う。ただシニアを進めていくと高齢者比率が高くなるということもいえるが、これらを含めて、市長のご意見はどうでしょうか。

中島：いま平成14年の高齢化率は全国平均20%以下に対し八代で22%と高くなっている。保険料も値上げしても足りない状況。この要因である医療費を抑えるには、健康な老人の社会をいかに作っていくか。そこで特に生活習慣病をとめるために今年度から医師会等と協力して医療指導事業を始めていく。

また、老人の生きがいという面から考えても、趣味のサークルも大事だが、農業もよい。農業再生検討委員会で話し合ったが、今後の八代の農業を、1つは全国志向型の大規模な減農業・有機農業、もう1つは地元志向の中小農業を地産地消の有機農業を中心にして、高齢者・定年帰農者に担ってもらふ二本立てで考えて生きたい。

もう1つは、新幹線等八代の交通要衝としてのポテンシャルと産業基盤としての自然を結びつけて、産業の振興につなげる。具体的には、農業体験のほか、森林浴などのグリーン・ツーリズム、先程挙げられた療養施設などの交流の拠点としていってはどうか。

上村：八代の再生について議論していただいたわけですが、市民全員が、利害を超えて向かっていかなければいけないと思います。16年度の例会で、この続きをテーマを絞ってディスカッションしていただければと思います。

本日はどうも有難う御座いました。